

令和2年度 第1回三木市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時：令和3年2月19日（金）午後1時30分～午後3時

場 所：三木市立教育センター 4階 大研修室

出席者：（委員 順不同、敬称略）

沼本教子委員、黒田 昭委員、木元倫代委員、赤松宏朗委員、
谷口良毅委員、田中多宏委員、武蔵智之委員、河村省子委員、
前田哲夫委員、堤 憲昭委員、原田靖子委員、面川勝治委員、
澁谷 昇委員、香月尚美委員、甲斐功一委員

（地域包括支援センター）

巻野介護保険課主幹長兼センター所長（保健師）、黒川主任（社会福祉士）、
真庭主任（保健師）、北谷主任（社会福祉士）、椿原主任（社会福祉士）、
石井主任介護支援専門員、山岸主任介護支援専門員

（事務局）

岩崎健康福祉部長、大江介護保険課長、吉本係長、山田主任

1 開 会

2 岩崎健康福祉部長あいさつ

委員出席報告 18人中15人の委員が出席にて協議会は成立

3 委員紹介

委員の自己紹介、事務局、地域包括支援センター職員自己紹介

4 委員長・副委員長の選出及び就任のあいさつ

委員長として沼本委員、副委員長として黒田委員を選出

5 議題

（1） 地域包括支援センターの運営について

資料「令和2年度地域包括支援センター運営協議会 運営について」P1～4

(2) 事業報告

資料「令和2年度地域包括支援センター運営協議会 実績報告」P1～6

資料「令和2年度地域包括支援センター運営協議会 説明資料」P1～36

(3) 令和3年度～5年度運営方針、令和3年度事業計画について

資料「令和2年度地域包括支援センター運営協議会 運営について」P5～9

6 質疑応答

・事前質問について 事前質問なしと報告（※木村委員のメッセージを紹介）

【委員】

認知症施策につきましては、色々と実施していただきありがとうございます。今後の計画にも認知症施策が盛り込まれており心強く思います。今後も継続的に取組みを進めていただきたいと思います。私は認知症の方の支援をしていますが、認知症のカミングアウトは難しいです。地域の方の理解がないとうまくいきません。構えを持たずに、隠さずに話ができる地域づくりを進めていただきたいと思います。よく「認知症にならないよう取組みをしています」という話をよく聞きますが、いずれ認知症になるかもしれない、なってもできるだけ進行を遅らせたいなというような気持ちになるような取組みをお願いします。小さなボランティアグループでは限界があるので、出席されている委員さんも協力いただいて、大きな流れにしていきたいと思います。チームオレンジについてもよろしくお願ひしたい。

【委員長】

確かにカミングアウトは難しいですね。

【地域包括】

地域包括支援センターには地域の方は気付いても、家族が認めないという相談が増えている気がします。誰でも認知症になる可能性があるを知っていただくよう、地道に普及啓発を進めることが大切だと感じております。

【委員長】

チームオレンジとはどのようなものなのでしょうか？

【委員】

むずかしいとは思いますが。私たちはサポーター養成講座を実施しているので、受講いただいた方には、会員になっていただいて私たちの活動に加わっていただ

いておりますが、地域全体で理解してもらうのは大変だと思います。市と連携して頑張っていきたいと思います。

【委員長】

ここ1年はコロナで行政の施策が思うように展開できなかつたと思いますが、ニーズがないわけではないと思います。コロナ禍の中で困っている方やご家族がおられると思いますので、どう拾い上げるか、みんな家でじっとしているのか実態が見えないのですがどうでしょうか？

【委員】

私は10年ほど「いきいき体操」を続けております。介護保険課をはじめ、沢山の方の協力をいただいています。当初は20教室ぐらいだったと思いますが、現在107教室あると報告を聞いてうれしく思います。ところが、私たちの教室は当初20数名いたメンバーも現在は10名以下になり高齢化が進んで、来られる方が減っていき寂しく思っています。体操の休憩時間には、いろいろな特技をお持ちの方がいますので、折り紙をしたり、買物袋を作ったりしてできるだけ楽しく笑顔になるようにして参りましたが、歳はとるものです。なんとか次の人に繋げる方法がありましたら教えていただきたいと思います。近所にはブラブラしている方もおられるので、お誘いもするのですがいい返事はもらえていません。三木市は高齢者にやさしい取り組みを実施していただいております。皆様の知恵を拝借してより元気で和気あいあいとした楽しい「いきいき体操」となるようなアイデアをお願いしたいと思います。

【委員長】

だんだん先細りになってきて、悩んでおられるということですね。入ってこれない理由は何かあるのでしょうか。自分は大丈夫だとか…。認知症もそうですが、否認をするというか、自分の中で歳をとっても弱らないという願望と希望的観測があるのでしょうか。市としても悩んでおられると思いますが、いかがでしょうか。新規参加者を募る工夫とかされていますでしょうか。

【事務局】

先細りの理由の一つとして考えているのは、移動の問題です。歳を重ねていくと車の運転ができなくなったり、家族に危ないからと反対されるという話を聞きます。緑が丘は行ける距離に教室があるので、それほど減っていないことにつながっているのかなと感じています。体操だけでなく、休憩時間にはお茶されたり和気あいあいと楽しんでおられるということをもっとPRしていきたいと思っています。今までは口コミでの広がりが多かったので、目に見える啓発を行ってい

きたいと思っています。

【委員長】

いい取り組みだとわかっていても、なかなか足を運んで参加してみようというのは、私もですが邪魔くさいとってしまいますが、住民の意識を高めるような啓発ができるよう努力していただきたいなと思います。

【副委員長】

介護保険が始まって20年が経ちます。認知症は当初から問題になっていました。ただ、この20年で市民の方の意識はものすごく変わってきました。これからも、啓発を進めていかないといけないと思います。認知症は病気というよりも一種の老化です。そこに老年の精神病も加わってくるので難しくなります。私も認知症初期集中支援チームに入っていますが、中には精神病と思われる方もいて、区別するのは難しいです。認知症は病気ではなく老化ということ、みんなで理解して受け入れて周囲が見守ることが大切です。一人でいるとどうしても悪くなるので参加する場所を作っていくのはとても重要です。認知症はふつうに診察しているとわかりませんが、認知症かもという気持ちで診察すればわかります。明日、北播磨の医師会に向けて勉強会があり、私も話をするのですが、認知症かもという気持ちで診察することが大切ということをお話したいと思います。皆さんがそれぞれの立場で認知症を理解しようと行動してくることが大切だと思います。

【委員長】

もう少しで今年度も終わりますが、コロナの影響で集まることもできず、行政サービスも届かないという期間が続いています。コロナフレイルが話題になっているように、心身の衰えや、認知機能の低下などがワクチンの接種し終わった後ぐらいに明らかになり、行政サービスの必要性が顕在化してくるのではないのでしょうか。地域ケア会議にはより深刻になった事例が出てくるのではと懸念します。次の運営協議会ではどのような話になるか、報告の内容も増えてくるのではと思いますが、この運営協議会は三木市の取組みを支援していきたいと思っています。

ご意見も出尽くしたようですので、このあたりで議事を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。